

防潮堤一律整備は問題

片山自民環境部会長に聞く

焦点

東日本大震災

東日本大震災の被災地で進む防潮堤計画をめぐる、自民党環境部会長の片山さつき参院議員(54)は比例代表は河北新報社の取材に対し、「地域事情を踏まえ一律に造るのは問題だ」と指摘し、計画見直しの必要性を訴えた。優先すべき防災事業として避難道の整備を挙げた。

1面に関連記事

片山氏は「政府や党に何 要。将来にわたる管理費が何でも建設ありきとの主張は膨大になる」と批判し張はない。住民の意見や景観の調和を考えて造るべきだ」と拙速な予算執行にくぎを刺す。

党環境部会では4日、安倍昭恵首相夫人や防潮堤に批判的な研究者を招き、議論した。片山氏は「三陸沿岸の景観がコンクリートで覆われて良いのか。砂浜も痩せてしまふ」と述べ、観光面への悪影響を指摘する。

防潮堤の強度も疑問視し、「宮古市田老で破壊された防潮堤を見て、あれほどもういとは思わなかった。コンクリートは10年たったらメンテナンスが必要」と強調した。



かたやま・さつき 埼玉県出身。東大法学部卒。財務省主計官などを歴任。自民党参院議員(静岡7区)1期、参院議員(比例代表)1期。10月から党環境部会長、参院予算委員長。

観光に悪影響、避難道優先